

平成21年度学校経営報告書（全日制）

1 今年度の重点目標（学校経営目標）への取組と評価

(1) 自ら学び、自ら考え・行動する生徒を育成する。

週1回始業前10分間「朝学習」を実施した。昨年度まで授業開始時に行っていた復習を省略することができたため、授業時間すべてを本時の目標に充てることができた。

紫苑祭の日程を大幅に早めたが、生徒会を中心とし、全校生徒が協力して実施できた。男女共学6年目であり、体育祭等では男子リーダーが着実に育ちつつある。

(2) 基礎基本の確実な定着を図り、応用力・思考力を高め、真理を探究する心を育成する。

授業外学習調査を1、2年生については年間4回、3年生については年間3回実施し、調査結果に基づき、適切な指導・助言を行った。外部テスト等を頼ることなく、年間を通じて、生徒個々の学習状況を把握することができた。

実力テスト未実施科目について集中授業を実施することにより、授業時間確保した。特別時間割による教科・科目による授業時間数の平均化に努めた。

週末課題、平日課題等を適切に与え、基礎学力の定着を図った。未提出者対応や追試日程調整が課題である。

(3) 高い志を育み、進路希望の実現を図る。

生徒個々の志を実現させるため、進路検討会等を活用し、学年部教職員及び生徒に対し苦手教科・科目を克服する意識を高揚させた。3年生においては、進路希望の変更や受験科目等の絞り込みをすることなく、3月まで進路目標に向かって努力した。

進路講演会、進路別出張講義等進路意識を高揚させる事業を行った。生徒に限らず保護者の参加を推進し、保護者と連携した進路指導の在り方が課題である。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 自ら学び、自ら考え・行動する生徒を育成する。

始業前10分を有効活用し、「朝読書」「朝学習」を効果的に実践する。

授業参観や校内研修を活用し、知識の伝達に終始する授業から思考力を高める授業への転換を図る。

(2) 基礎基本の確実な定着を図り、応用力・思考力を高め、真理を探究する心を育成する。

「八帰二修」を生活信条とし、最低1日2時間の家庭学習習慣を確立させるため、週末課題の工夫と指導の徹底を図る。

45分授業の利点を活用した丁寧かつ適切な指導を展開し、基礎学力の育成を図る。

(3) 高い志を育み、進路希望の実現を図る。

4月、9月に面接週間を設定し、初期指導を含め体系的な指導体制を確立する。

進路検討会、大学研究、模試分析会等を実施し、個に応じた適切な指導を展開するとともに、課題を共有化する教員組織を構築する。